

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【宇治中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名:奥田 直明 (所属校:菟道第二学校)

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学調・府学テの分析・確認 ○ICTの効果的な活用 ○公開授業を含む合同授業研究 ○特別支援教育の支援・手立てを含めた小学校から中学校へのきめ細かな引継ぎ ○研究テーマ「学力(国語力)向上のための、学級経営と授業の改善」の共有 ○定期的な児童・生徒実態アンケート 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック間で状況を共有することができた。 ・公開授業をする学校だけでなく、3校で授業づくりをする機会があることで、それぞれの校種の視点を生かした指導案作りを行うことができた。 ・全国学調・学パスの3校の結果を合同研修会で報告し、現状分析ができた。その上で、児童生徒につけさせたい力を提案できた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学テの分析と、小中一貫の取組や内容を一致させたり取り入れたりすることは難しかった。コーディネーター間で各学校を回り、実態を把握することで、小中一貫の取組を考えていきたい。 ・学級経営をテーマにするならば、具体的な視点を持たせることで取り組みやすい内容にしていかなければならない。 ・アンケートを交流することで、小中学校の教職員が9年間の子どもの成長の見通しを持てるようにしたい。 ・ラーニングコーディネーターが核となり、引き続き各校校内研修と合同研修の連携を図る。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校間の丁寧な引き継ぎ ○実態交流 ○各校の授業参観 ○就学前を含む地域の関係機関との連携 ○定期的な児童・生徒実態アンケート 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年中学校の授業参観、隔年で小学校の授業を参観する機会があり実態を共有することができた。 ・合同研修会で、中学校と代表校(今年度は菟道小)の授業参観を行い、それぞれの校種の実践を交流できた。 ・学級の実態についても交流することができ、多角的な視点で児童への関わり方について学べる機会をもつことができた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と中学校との交流が教職員間で行われているが、児童・生徒間での交流が少ないので、学校間で関われるような活動を取り入れたい。 ・4回の合同研修会の内容を充実することで、より学びのある取組を行えるようにする。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーター会議の定期的な開催 ○小中一貫教育の推進に向け、課題解決に向けた具体的な研究・研修 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にコーディネーター会を開き、研究テーマに向けて見通しをもって連携できた。 ・研究テーマに合った講師(府教委「魅力ある学校・学級づくり事業」との連携)を活用し、全教職員が同じビジョンをもって取り組めた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と日程の調整が難しい。検討事項が多いと、会議が長時間になることがあった。 ・ラーニングコーディネーターが定期的に他校を回り、児童・生徒の様子を見に行く機会をより充実させ、研究内容に反映させる。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ○「小中一貫教育便り」の活用 ○保護者・地域からの意見の収集 ○学校運営協議会・地域団体への積極的なブロックの取組 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫だより(FUTT)の発行によりブロックの取組を定期的に発信できた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への発信は課題が残った。ホームページや学校だよりなどで、定期的に取組の発信をすることが、周知の第一歩となるのではないかと。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【北宇治中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：掛井 照博（所属校：北宇治中学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の際に、各校における授業方法等の工夫や、各校の児童・生徒などの実態を知り、学力の向上や小中連携に生かすようにした。 ・児童会・生徒会による合同行事（9/5）に北宇治中にて中学生の合唱リハーサルを小学生が見学）や半日体験入学の取組、小学校での職場体験の実施等により小中連携を推進する。 ・夏季研修にて小中間の道徳の授業について交流→2月に中学の道徳授業を小学校教員が参観 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の学力実態や課題を明らかにし、小中学校教員が協力して指導方法の改善に取り組むことにより、校種間を越えた理解や連携の意識を高められた。道徳の授業参観を実施できたことにより校種間による道徳授業の方法を共有するとともにどのような児童を育てたいのかを共有できた。 ・小6半日体験入学を実施でき、中1ギャップの解消につなげられた。 ・中学校の合唱の取組の参観を6年生児童対象に実施した。小中双方の児童生徒にとってよい刺激となり、縦のつながりがよりよい成長を促すことを実感できた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の教職員が一堂に会し、各分散会において実践を交流する面では有効な取組になっているが、各校での時間割の調整や移動に伴う負担がある中で、小中一貫での取組についてさらに効果的で有効なものになるよう、取組内容の継続と改善と意識づけを図っていく必要がある。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季研修において、南部センターの警察の方を講師として招きSNSトラブルの未然防止に向けた合同研修会を行うなど、先手を打てる生徒指導を行うきっかけになった。 ・自ら考え、行動できる児童生徒の育成を目指す。 ・職員に人権意識の高揚を図るとともに、人権問題への理解や認識を深めることにつなげられた。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や特別支援の担当者が連携を取り、児童の実態把握に努めた。 ・各校の実態を交流することができた。 ・合同で研修を受けることでSNSに潜む怖さや何を児童生徒に伝えるべきかを考えることができた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・各校での時間割を調整するなど、移動に伴う負担がある中で、小中一貫での取組についてさらに有効なものになるよう、取組内容の継続と改善を図っていく必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・機能的な組織運営をめざし、年度当初に校長会や企画会議を実施して本年度の小中一貫教育における方針や計画を決定するとともに、各コーディネーター間の連携を密にし、小中一貫教育をさらに有効なものにした。 ・2回の総会と夏季研修で、目指す児童生徒像を共有した。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会を毎月開催し、各校の状況の確認等、充実した交流ができた。 ・コーディネーター間において事前連絡を取り合い、様々な実施計画や運営、総括等について、検討・確認を行うことが出来た。 ・総会や合同研修会の際、少人数グループ編成にすることで、交流が活発になった。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・分散型の形式における小中一貫教育がさらに有効なものになるよう研究を進めていく必要がある。また、参加する教員において、さらに効力感が持てる取組にしていく必要がある。 ・中学校の教員が小学生児童に授業をする機会が持てるようにしたい。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クリーン運動を小中合同で行うなど活性化を目指す。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を卒業した児童に中学入学までの「春休みの宿題」を発行し、取り組んだ。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫教育だより」を学期1回程度発行し、小中一貫教育の取組を保護者、地域に紹介する。 ・「家庭学習の手引き」を見直し、保護者の協力を得つつ家庭学習の方法の理解など、学習を充実させることで学力の向上をはかる。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【榎島中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：船橋 俊太郎（所属校：榎島中学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<p>○学力分析を通して授業改善の取組…学力分析部会を通して、児童・生徒の課題を把握し、課題克服に向けての方向性や取組について協議して授業改善に繋げる。</p> <p>○アクションプラン推進…国語力部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。</p> <p>○小学生の中学校体験入学…中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。</p> <p>○服のチカラプロジェクト…ブロックの小中学校の生徒会・児童会を中心に、ユニクロ主催の古着回収事業の活動を行う。</p>	成果	<p>・各校の学力テスト分析結果を交流し、ブロックにおける課題を共有し、学力向上の方向性について検討することができた。</p> <p>・ブロックの学力研究員による発表を行い、言語活動の充実や具体的な授業改善の手法についてブロックに周知することができた。</p>
			課題 (改善策)	<p>・授業改善の方向を明確に示しつつ、より一層課題解決に向けて取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>・具体的な取組について議論し、言語活動を通して国語力の向上とインクルーシブ教育の推進に取り組んでいく必要がある。</p>
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<p>○生徒指導部会、インクルーシブ教育推進部会による交流…生徒指導やインクルーシブ教育推進における児童・生徒理解を深め、小中接続をスムーズにするために情報交流や協議を行う。</p> <p>○LCによる小6出前授業…小中接続をスムーズにさせるため、ラーニングコーディネーターと中学校生徒指導主任が各小学校で、中学入学前の心得や準備等について授業を行う。</p> <p>○各校授業参観…各校の授業参観を通して、児童・生徒理解を深め、小中連携をスムーズに行う。</p> <p>○夏季研修(講演会の企画)…本校SCを講師に招いて、児童・生徒理解、保護者対応や各校の課題解決に繋がる内容についての研修を行う。</p>	成果	<p>・各校の授業参観や、各部会での情報交流を積極的に行うことができ、スムーズな小中接続を目指し、各校の状況を把握することができた。</p> <p>・夏季研修において、本校SCの小牟禮先生に講演頂き、「保護者対応」について本ブロックが抱える課題について教員が考え、ワーク形式で実施することができた。</p> <p>・年間計画を年度当初に各領域部長が考え、部会を行った。</p>
			課題 (改善策)	<p>・部会では各学校の情報交流に終始してしまっているため、ブロックの課題解決に向けた協議や検討を活性化させていく必要がある。</p>
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<p>○合同研修会…榎島中ブロックの取組や目指す方向性などの確認や、各部会等の取組の報告等を行う。また、講師を招いてブロックの課題解決に関わる講演会等を実施する。</p> <p>○各部会での授業改善・取組改善…学力分析部会、国語部会、ICT推進部会、インクルーシブ教育推進部会、生徒指導部会、特別活動部会に分かれ、小中一貫教育の視点でそれぞれのグループにおける授業改善や取組の改善に向けて協議や、各校の情報交流を行う。</p>	成果	<p>・定期的に合同研修会を開催することができ、連携を深めることができた。</p> <p>・研修会を通して、各校の課題を共有するとともに、指導改善の方向性を確認することができた。</p>
			課題 (改善策)	<p>・ブロックで共通した取組を実施することを目指し、各部会で改善すべき課題について協議し、全体に周知し、改善の方向性について共有できるように取り組む。</p>
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<p>○教職員広報の発行…教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。</p> <p>○情報発信…小中一貫教育便り「ゆるやかに、つながる」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。</p> <p>○地域との連携…学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。</p>	成果	<p>・教職員広報や小中一貫便りを発行することによって、教職員間や保護者にブロックの取組を周知することができた。</p>
			課題 (改善策)	<p>・地域との連携については取組が不十分である。各校のCSコーディネーターとも連携を図りながら、活動や取組の充実を目指す。</p>

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【西小倉中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：西尾 直樹（所属校：西小倉中学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・学力分析 ・指導方針の確立 	成果	コーディネーター会議で京都府学力調査から見えるブロックの児童・生徒の強みや弱みを共有し、小中一貫校開校に向けて、各分掌の方針、取組について協議をすることができた。
			課題 (改善策)	小中9年間でそれぞれの発達段階があるが、9年間でどのような児童・生徒を育てたいか最上位目的を教職員で共通理解をして、現状を分析しながら取組を進めていく必要がある。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信の回覧 ・中学校準備講座 	成果	ラーニングコーディネーターが学期に1回出前講座を行い、①中学校の概要②学習について③生徒指導(ルール)について講義を行った。入学する上での不安、疑問解消につながった。
			課題 (改善策)	小中で児童・生徒の実態や身につけたい力について、小中の教職員で交流して共通理解を図り、有効な取組や実践を検討していく必要がある。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会 ・担当者会での検討会議 ・コーディネーター会議 ・小中一貫教育推進会議 ・課題解決学習の教職員研修 	成果	小中合同研修会、担当者会において各教科や各分掌の方針や取組、指導、支援の方向性について協議を重ねることができた。協議を重ねる中で、小中のそれぞれの考えやそれぞれの学校の文化を理解し合う機会にできた。
			課題 (改善策)	小中一貫校の開校に向けて、小中の教職員でそれぞれの学校の文化を理解しあい、譲り合いながら合意形成を図り、方針や取組を考えていく必要がある。また、同じ目的をもって育てたい児童・生徒像を対話をしながら実践を進めていく。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌発行(学期1回) ・地域懇談会 ・思い出プロジェクト ・地域行事の参加 	成果	地域懇談会を実施して、保護者や地域の方から西小倉中ブロックの児童、生徒の強みや弱みを共有し、小中一貫校の目指すべき方向性を考える機会とすることができた。 地域、学校が連携し壁画アートや地域清掃などの地域行事に児童、生徒も参加し、地域と学校のつながりを深めることができた。 小中一貫校の新たなCSの体制について整備を進めることができた。 学期に1回広報誌を発行することができた。
			課題 (改善策)	小中一貫校の開校に向けて、学校評価アンケートを小中で合わせていくことや地域行事等の整理をしていくことが必要である。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【西宇治中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名:能瀬 直子 (所属校:西宇治中学校)

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のN・I・S合同研修会で、非認知能力、評価の仕方、道徳などについての講義を受けた。 ・ブロック内の3小中学校のコーディネーターが集まり、全国学調や学びのパスポートの結果を見て分析交流した。また、第2回N・I・S合同研修会において、分析結果からわかったことや今後の重点目標などを交流した。 ・1学期と3学期に特支交流会を行い、小学校から中学校へのスムーズな接続や小中の児童生徒や保護者同士の交流を促すことができるようにしている。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教職員が学びと見識を深め、校種や学校、教科を超えて交流することで互いの理解を深め、現状把握と今後ブロックで目指すべき方向性を確認することができた。 ・3校のコーディネーターが集まって分析することで、目線を合わせて、同じ視点で考えることができ、適切な分析を行うことができた。また第2回N・I・S合同研修会で分析結果をパワーポイントで発表し、全教職員が児童生徒の現状を自校のみならずブロック全体として共通理解することができた。 ・1学期の特支交流会では、宇特研の行事に向けての心構えを確認し、卒業生となる中学生の姿を小学校の教職員に見せることができた。3学期の交流会では、新入生が中学生と活動することでスムーズに入学できるように配慮するなど、9年間の見通しをもって取り組んでいる。
			課題(改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を中心として分析したが、学力だけでは測れないものがあるので、それぞれの学校の良さや個性を加味して、今後目指すべき方法性を考えていきたい。
到達目標2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回N・I・S合同研修会では、「成長的マインドセットを高めるために」と題して、カップスなどのワークショップを交えながら実践的に社会情動的な力を伸ばすための考え方や方策を学び、第3回N・I・S研修会では、「非認知能力を育てる道徳科の授業づくり」と題して、道徳科の授業で大切にすべきことを学んだ。 ・第2回N・I・S合同研修会では評価についての研修を行い、教科部会で研修で学んだ内容を深め、交流した。 ・11月の新入生半日入学における部活動体験や、2月の学習説明会を行った。 ・中学校のラーニングコーディネーターがそれぞれの小学校で週1回授業見学を行い、学びにくさのある児童の支援を行った。 ・N・I・Sの教科部会で、連続性のある子ども理解と生徒指導ができるよう、交流や話し合いを行うことができた。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・N・I・S合同研修会では、大切なテーマについて多くを学び、話し合いや交流を行って、小中の教職員に共通の視点や価値観が生まれ、共通認識のもとに教育活動を行うことができた。 ・11月の新入生半日入学における部活動見学や2月の学習説明会で、中学校生活をイメージできるように取り組み、中1ギャップを軽減し、安心して中学校に入学できるように配慮できた。 ・中学校教員が定期的に小学校に足を運ぶことで教職員や児童と自然に交流することができ、中学校入学に対する不安を解消するのに役立った。 ・教科部会で交流することで現状を共通理解し、連続してどのように指導していくか考えることができた。 ・ブロック内の3校を順番にまわってコーディネーター会議を行い、学校の状況や児童生徒の様子を見ることができた。
			課題(改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は3校での研究授業を行わなかったため、授業を通して児童生徒の様子の実態を知ることが難しかった。来年度以降は年に1回の授業参観を行うようにする。
到達目標3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回N・I・S合同研究会で教わったカップスは、研修後も話題に上がることが多く、教室で児童生徒と行っていた学級もあった。 ・教科部会では、第1回N・I・S合同研修会にて、それぞれの教科部会でカップスやそのほかのワークに組み込み、その感想などを交流した。第2回N・I・S合同研修会においては、どのように3観点を評価しているか、中学校での学習に向けて小学校でできること、しておいてほしいことを考えた。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだり気付いたりしたことが多く、深い学びにつながった。研修で学んだことを活かして日常の教育活動を行う教職員が多かった。 ・カップスなどのワークを使って指導を行う学級も多く、研修の内容を実践することで社会情動的な能力(非認知能力)を少しずつ上げることができている。 ・教科部会は短時間であったが、話し合いや交流を密に行い、評価の仕方について考える機会になった。
			課題(改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことを短期的に活かすことができたが、長期的に継続して考えられたかどうかについては疑問が残る。今後目標とする内容とも絡めて、継続的に考え続けられるように工夫する。
到達目標4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック内の3校で日程を合わせて年度に3回の朝のあいさつ運動を行った。昨年度までは、それぞれの学校に集まって行っていたが、児童生徒の安全確保と教師の負担軽減から、今年度の形となっている。挨拶ができる児童生徒の育成を目指し、児童会、生徒会で行っている。 ・さまざまな機会に可能な限り交流を密に行うことができるよう取り組んでいる。 ・児童生徒と一緒にカップスやワークの活動を学級で行い、非認知能力を高める取組を行った。 ・神明小では、新入生半日入学だけでなく、学習説明会においても、西宇治中進学組と宇治中進学組に分かれて行った。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会であいさつ運動を同日に行い、あいさつを大切にしている児童生徒を育てることに貢献している。 ・ブロックの連携の大切さを認識し、さまざまな機会に可能な限り交流を密に行って共通の意識をもつことができるようにし、同じ目標を掲げて取り組むことができた。 ・カップスやワークの活動を通して児童生徒のつながりを深めることができた。 ・神明小では、学習説明会で宇治中からも教職員に来てもらい、分散進学児童にも配慮した取組を行った。
			課題(改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会と生徒会の交流ができていないので、次年度以降、ズームなどを使って行うことを検討していきたい。 ・分散進学児童に対する配慮をすることが難しい。小倉小の学習説明会は西宇治中が開催する日と別日であるため、分散して西宇治中に来る児童に対して学習説明会を行うことはできなかった。分散進学児童についてどのように配慮するかは課題である。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【南宇治中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：瀧美 善之（所属校：南宇治中学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期研修会で小中間での課題、宿題についての取り組み方を共有した。 ・「心理的安全性」を高めることに焦点化した研修でグループ協議を行い、実践例などを共有した。 ・京都府学力学習状況調査(学びのパスポート)の「自己調整」と「心理的安全性」についての交流を行い、ブロックの児童生徒の特徴を共有した。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自己調整を高めるために、合同会議の中で効果的な宿題や課題の取り組み方を共有することで、小中間でのやり方の違いに気づき、児童生徒に合った取り組み方を検討した。 ・学びのパスポートの質問紙の「自己調整」、「心理的安全性」について交流し、児童生徒の実態をつかむことができた。小学校間でも交流することで、新たな気づきがあった。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりのために模範的な授業の共有が必要である。 ・ICT機器を活用した授業、個別最適な学びを実現する実践などを考え、取り組んでいく。 ・小中合同会議で、様々な学年が混ざったグループで交流する機会を作り、9年間の見通しを持つ。
到達目標2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校授業体験で、中学校の教員が国語科、社会科、保健体育科の授業を行った。 ・LCによる小学校出前授業を行った。 ・LCが月に数回の小学校の授業参観を行った。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の教員でグループを作り、児童生徒の様子だけでなく、普段の関わりの中で気を付けていることなどを交流し、教員間で指導のギャップを埋めることができた。 ・新入生体験授業、部活動体験、中文拳の体験などを通して中学校の教員が直接児童に関わり、様子を知ることができた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中のスムーズな接続を見通したのギャップの少ない生徒指導を目指した連携を図る。 ・LCによる小学校への参観の頻度を増やし、行事などにも可能な範囲で参加し、様々な場面での児童の様子を見る。
到達目標3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の小中合同会議でテーマを設定し、小中の教員が混ざったグループで意見交換を行った。 ・やさしい日本語エバンジェリスト船見和秀氏を講師に招き、「やさしい日本語について」の研修会を実施した。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭状況が困難で学習に関わる余裕がない、関心がない、宿題や課題がやり切れない、コミュニケーション不足など学習に対する課題を共有した。 ・講演を通して外国にルーツのある児童生徒とその保護者とのコミュニケーションの取り方や、母語を大切にすること等の理解が深まり共通理解が図れた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭状況が困難な児童生徒への具体的な支援方法を考える。 ・授業の振り返りを充実させ、深い学びにつながる授業づくりを促進する。 ・LCが授業参観を行い、授業づくりに積極的に関わる。 ・やさしい日本語を実践できるよう継続して研修を行う。
到達目標4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童生徒の情報共有および、支援体制の協議、実践などを行った。 ・児童会生徒会を中心とした交流活動を実施をした。「年間3回の小中合同あいさつ運動と事前のオンライン会議」「地域清掃ボランティア活動」「中学校授業体験、部活動体験(6年生)」「中文拳の武術体験(各小学校の2年生)」「帰国外国人児童生徒理解学習(6年生)」を行った。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の先生が学校での生活の様子などを話し合い、児童生徒との関わりの中で意識していることを共有することができた。 ・地域清掃ボランティアにブロックの児童、保護者、CS、教員が参加し、交流を深めることができた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃ボランティアや小中挨拶運動への育友会やCSとの連携を強化し、より多くの方に参加して頂けるよう工夫する。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【広野中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名: 鶴飼 宏明 (所属校: 大開小学校)

到達目標	具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施 ・中学校ブロック「家庭学習の手引き」の作成 ・小6児童への春休み宿題の作成 ・宇治市学力向上対策協議会によるスキルアッププログラムの実施 	成果 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季合同研修会を実施し、「C層の学力を高めるために、各学年・教科でできること」をテーマに小中の教員、また小学校では学年ごと、中学校では教科部ごとに検討し、1つにまとめ上げることができた。また研修を通してC層の児童生徒に対する意識付けを高めることもできた。 ・各校コーディネーターが担任と協力して児童生徒にスキルアッププログラムを取り組ませ、宇治市共通の学力課題を向上させることができた。 ・家庭学習の手引きや小6児童への春休みの宿題を作成、配布することができた。 	課題 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ・C層の児童生徒への学力向上を図るために、この課題を小中一貫教育コーディネーターが小中合同研修だけでなく、各校でも必要に応じて示していく。
		成果 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はしばらく取りやめていた部活動見学を復活させることができた。小学校6年生の参加は任意であったが、たくさんの児童が参加した。 ・中学校体験学習の際に小小交流ができ、中学校入学前にお互いを知るよい機会となった。 ・紙芝居読み聞かせ交流では特に中学生が生き生きと紙芝居を読んだり、小学生に優しさを示すことができた。 ・児童会、生徒会の交流であるHOT-MEETINGを中心に、児童生徒が交流する事業が実施でき、活発な交流ができた。その中で福島ひまわりプロジェクトも学校全体の取組として各校で実施でき、プロジェクトに参画する意識を高めることができた。 	課題 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ・ホットミーティングでは、福島ひまわりプロジェクトの取組が形骸化しつつあり、それ以外の取組を検討する必要がある。
到達目標 2 つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施 ・福島ひまわりプロジェクトの実施 ・小6の中学校体験学習での小小交流事業 ・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ ・小学校での中学生職場体験の実施 ・部活動見学の実施 		成果 <ul style="list-style-type: none"> ・各校から、参観や授業研の案内を出し合うことができた。 ・総会や夏季合同研修会を通して各校の教員同士が交流でき、中学校ブロックの各取組への意識をより高めることができた。 ・夏季合同研修会での小学校同士の学年会議により、有効な手立てについて理解を深め、実践に生かされた。 ・各校の生徒指導の課題を交流し、児童生徒への理解を深めることができた。
		到達目標 3 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治ひろの学園総会の実施による小中一貫教育の取組周知 ・3校での夏季合同研修の実施 ・授業研の交流 ・3校の生徒指導の交流(問題事象の交流や傾向の分析など)
到達目標 4 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・HOOP(宇治ひろの学園小中一貫だより)の保護者への配付 ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用 ・3校巡回作品展の保護者向け公開 ・中学校ブロックあいさつ運動(各学期1回、合計3回) 		

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【東宇治中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名:鈴木 真佑 (所属校:南部小学校)

	到達目標	具体的な取組方策		成果と課題
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研究授業や相互授業参観を含む小中合同研修会の実施 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その中に、ことばの力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、生きて働く学力や生きる力を高めるための指導の充実・向上を図る。また、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた授業研究を進める。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会を年3回設定し、本ブロック児童生徒の学力課題の共有、非認知能力と認知能力の一体的な育成・向上に向けた研修や協議などを実施した。 ・夏の合同研修会では岡屋小学校の研究内容を知り、それを踏まえて秋の公開授業では視点を絞って授業を参観することができた。 ・秋の合同授業参観後にテーマ別交流会を実施し小中の教員間で情報を共有することができた。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会の実施 ・学力面だけでなく、生徒指導部会、特別支援・教育相談部会を設定し、学校ごとの取組や児童の様子を交流するとともに、中学校へスムーズな接続ができるように一致した取組を進める。 ・3小の6年生によるオンライン交流の実施 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の合同研修会では専門部会を開き、各校の学力や生徒指導、特別支援、教育相談の状況を交流し、ブロックの方向性を確認することができた。 ・中学校半日体験や花植ボランティア、中学生の美術作品交流など、様々な形態の児童生徒交流を進めることができた。 ・半日体験入学を経て感じた疑問や進学に向けての不安など中学校生活への質問を中学校へ送り、中学校生徒会から動画で回答する形で小中質問交流会を実施することができた。それにより、中学校生活への不安を解消する手助けとなった。 ・三小の6年生同士がオンラインで交流することで、子ども同士が学びを伝え合うことができた。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観・合同研究授業 ・相互授業参観や合同研究授業を通して、教職員の連携と協働を進め、指導力を高める。 ・ブロックの小中学校の職員写真を職員室内に掲示することで、連携・協働を進めやすくする。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック校長会と連携させながらコーディネーター会議を定期的開催し、取組の点検・評価を行いながら、取組の方向性や改善点を全体に提示し、小中一貫教育の目標に向けた取組を推進することができた。 ・夏の合同研修会では、岡屋小学校での実践発表とテーマ別の交流会を実施し、指導・評価方法や児童・生徒理解について小中や小中の教職員間で連携を深めるきっかけを作ることができた。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育だより等による広報 ・家庭学習習慣・生活習慣の確立・充実の取組 ・小中一貫教育だよりを発行したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を紹介したりして、積極的に情報発信を行う。 ・ブロック共通の「家庭学習の手引き」の活用を進めながら、児童生徒の実態に応じた家庭学習習慣・生活習慣を高める取組を進める。 	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回の小中一貫教育便り発行したり、各校の学校便りで取組を発信したりすることができた。また、それらを掲示する小中一貫教育コーナーを各校に設置したり、HPを活用したりして情報発信に努めた。
			課題 (改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・本ブロック児童生徒の学力課題や学力の基盤となる生活課題に迫る、家庭・地域と連携した取組を模索していく。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【木幡中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：佐飛 泰成（所属校：木幡中学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	【9年間を見通しての「ことばの力」の育成】 8つの教科部会(国語、社会・生活、数学・算数、理科・生活、芸術、保健体育、英語・外国語、道徳)で、3回の小中合同の研修会の中で、「ことばの力」を育むために、系統的・継続的な指導を進めていく。	成果	C層の底上げを意識した授業づくりについて、各教科部会で授業の方法の交流を中心に協議を行い、小中の授業改善に向けて、一翼を担った。
			課題 (改善策)	R-PDCAのアンケートを採り、その中で「ふりかえり力」、「多様な意見を出す力」の2点に注目し、結果を振り返った中で、日々、この2点を意識した授業や取り組みをしていかないと向上しないことがわかった。次年度は、9年間を見通した育ちと学びに関わり、ラーニングコーディネーターが各小学校で出前で中学生生活の授業を行い、よりなめらかな接続をしていきことも検討していく。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	【切れ目のない生徒理解と小中が連携した生徒指導の推進】 3つの連絡会(学力充実・いしずえ、児童生徒理解、健康安全)を通して、小中での児童・生徒交流を深め、切れ目のない生徒指導・支援を推進する。	成果	各連絡部会を通して、切れ目のない子ども理解につなげることができた。5月や2月などの小中連絡会では小学6年生から中学1年生への進学に当たった情報の共有など行うことができた。
			課題 (改善策)	個別の支援を要するD層の児童・生徒だけでなく、見えにくい課題を持つC層の児童・生徒への理解がより一層求められる。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	【夏季合同研修会】 人権教育の手法を深めるために講師を招いて、人権に関する講演を実施。様々な人権について深め、人権意識の向上を図る 【小中連携】 小中合同研修会を通して、中学校ブロックの課題や長所を共有し、それを生かした取り組みを検討していく。	成果	人権教育について研修を行い、講演の中で、様々な人権問題をアニメなどわかりやすい資料を用いて、説明していただき、人権教育の一つの手法として、深めることができた。3回の小中合同研修会を行い、小中での取り組み内容を交流し、深められた。
			課題 (改善策)	小中合同研修会の内容や部会の持ち方などを検討していく必要を感じた。小中の授業改善のために交流を深めているが、形骸化している側面もある。小中一貫教育を進めていくために、さらに内容の精選を図っていきたい。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	【地域交流の活性】 青少協主催の「おもろいやんか木幡」への参加 【ホームページの活用】 ホームページに小中一貫教育の取り組みを掲載し、取組の啓発を図る。 【小中一貫だより】 小中一貫の通信を発行し、小中一貫の取り組みを発信する。 【保護者説明会】 新入生保護者説明会などを通して、小中一貫の取り組みについて情報発信を行う。	成果	青少協主催の秋祭り「おもろいやんか木幡」の参加を通して地域との交流を深めることができた。 HPや保護者説明会を通して保護者や地域への情報発信を行うことができた。
			課題 (改善策)	ブロックとしての小中一貫教育の活動の地域への周知については不十分な課題がある。HPや通信などを活用し、ブロックとしての活動を一層発信していき、地域・保護者の理解を深める必要がある。

令和7年度「中学校ブロックジョイントプランに基づく年度総括報告書」【黄檗中学校ブロック】ラーニングコーディネーター名：清水 宏樹（所属校：宇治小学校）

到達目標		具体的な取組方策	成果と課題	
到達目標 1	9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながりに関わって	「探究的な学び」の指導についての実践的探究 ・生活科・総合的な学習の時間を中心とした各教科とのつながりを明確にした年間指導計画を作成・改善する。 ・「探究的な学び」の土台として、9年間の系統性を意識しながら効果的な基礎学力定着の取組を計画・実施する。	成果 ・生活科・総合的な学習の時間での「探究的な学び」の系統性を意識して、年間指導計画の概要を一覧できるように整理してまとめた。 ・総合的な学習の時間の単元計画・授業案の作成について、単元目標・評価基準を明確にしながら学習内容を構築していく方法を学んだ。	課題 (改善策) ・「探究的な学び」の質を向上させるため、その土台として、基礎学力の向上が必要。加えて、基本的な学習意欲・学習規律、そして協働的に学べる関係性を含めた学級集団の育成が必要。そのために現状把握、教員間での課題意識の共有、改善点の検討、取組の実践、結果からのフィードバックのサイクルを実施していく。
			成果 ・小学校、中学校の生徒指導主任が連携し、事象・指導の共有ができた。 ・小学校・中学校の垣根を越えて、必要な場合は、小学校教員が中学生の指導をサポートしたり、中学校教員が小学生の指導をサポートしたりすることができた。	課題 (改善策) ・一貫性(9年間)を持たせることができていない約束やルールがある。お互いの校種の約束やルールを確認する場を設定する。 ・教員による指導ばかりになっているが、生徒指導部と特別活動部が連携し、児童生徒が中心となって学園の風紀(生活規律・学習規律等)を改善していけるような取組をしていく。
到達目標 2	つながりのある子ども理解と生徒指導に関わって	情報の共有による一体的な生徒指導 ・9年間の継続的な生徒指導を進めるため、小学校・中学校それぞれの課題を共有する。そのため、小学校の生徒指導部長が中学校の生徒指導部会に毎回参加し、定期的に小学校とも情報共有をはかる。学園として一体的な生徒指導ができるようにする。	成果 ・小学校、中学校の生徒指導主任が連携し、事象・指導の共有ができた。 ・小学校・中学校の垣根を越えて、必要な場合は、小学校教員が中学生の指導をサポートしたり、中学校教員が小学生の指導をサポートしたりすることができた。	課題 (改善策) ・一貫性(9年間)を持たせることができていない約束やルールがある。お互いの校種の約束やルールを確認する場を設定する。 ・教員による指導ばかりになっているが、生徒指導部と特別活動部が連携し、児童生徒が中心となって学園の風紀(生活規律・学習規律等)を改善していけるような取組をしていく。
			成果 ・小中合同の教科部会や領域部会・夏季研修を設定・開催できた。 ・研究部による授業公開・事後研究会を年間4回実施し、小中合同で「探究的な学習」の効果的な指導法について学ぶことができた。 ・小中連絡会等の設定はあるが、日常的に小学校・中学校それぞれの児童生徒の様子について情報共有をすることができた。 ・昨年度に引き続き、全小中教員で本校がめざす児童生徒の姿(行動指標)を再検討した。昨年度の決定に加えて、その行動指標を児童生徒・教員が協働して「みんなで」めざしていこうという指針が追加できた。	課題 (改善策) ・小中合同で80名近くの教員が揃って研修できるスペースの確保が難しい。猛暑の中、研修会場の交流ホールエアコンはほぼ効果なく体調不良を訴える教員が多かった。 ・発達支持的生徒指導、児童理解を中心とした特別支援的手法については、本校の実態を具体的にとりあげた拡大ケース会議のような研修方法を検討する。理論研修だけでは、当事者意識をもって学ぶのが難しかった。
到達目標 3	指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働に関わって	小中連絡会 ・小中の現状把握・課題の共有・連携した指導ができるようにする。 小中合同夏季研 ・発達支持的生徒指導、児童理解を中心とした特別支援的手法、学力・学習状況調査の分析等の研修を全小中教員で実施する。 めざす児童生徒像(行動指標)検討 ・全小中教員で本校の課題とめざす姿を話し合い、次年度のめざす児童生徒像(行動指標)を検討する。	成果 ・学校運営協議会を定期的に開催し、学校・地域の状況を交流できた。 ・各教科、休み時間や放課後の補習等における学校ボランティアの活用が増えた。 ・育友会(PTA)活動に学校も協力的に参加することによって充実した行事の実施、広報活動を行うことができた。	課題 (改善策) ・地域学校協働活動推進員(CSコーディネーター)の活動やボランティアで協力してくださった方々をホームページ等で紹介する機会を増やす。 ・教員に対して学校ボランティア要請の希望周知が不十分だったので、教員側のニーズをもっと引き出せるように声をかける。
			コミュニティ・スクール ・計画的に学校運営協議会を開催し、小中一貫教育の状況確認をする。 ・ホームページ等を活用し、学園全体の取組の積極的な広報活動を行う。 ・各教科・クラブ活動等における学校ボランティアの活用を進める。	成果 ・学校運営協議会を定期的に開催し、学校・地域の状況を交流できた。 ・各教科、休み時間や放課後の補習等における学校ボランティアの活用が増えた。 ・育友会(PTA)活動に学校も協力的に参加することによって充実した行事の実施、広報活動を行うことができた。
到達目標 4	家庭・学校・地域でつくる育ちの輪に関わって	コミュニティ・スクール ・計画的に学校運営協議会を開催し、小中一貫教育の状況確認をする。 ・ホームページ等を活用し、学園全体の取組の積極的な広報活動を行う。 ・各教科・クラブ活動等における学校ボランティアの活用を進める。	成果 ・学校運営協議会を定期的に開催し、学校・地域の状況を交流できた。 ・各教科、休み時間や放課後の補習等における学校ボランティアの活用が増えた。 ・育友会(PTA)活動に学校も協力的に参加することによって充実した行事の実施、広報活動を行うことができた。	課題 (改善策) ・地域学校協働活動推進員(CSコーディネーター)の活動やボランティアで協力してくださった方々をホームページ等で紹介する機会を増やす。 ・教員に対して学校ボランティア要請の希望周知が不十分だったので、教員側のニーズをもっと引き出せるように声をかける。